

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【芝川小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的な学習内容の定着を図るために反復練習による学習を行ってきた。スクールダッシュボードへのデータの蓄積を継続して行っているが、より一層データの活用を進めていく必要性を感じた。「ドリルパーク」「スタディサプリ」が『ただの作業』になっていないか。宿題が画一的で、やっていると成果が見えにくく、個別のつまずきと結び付いていないのではないかと。そういったクリエイティブな視点から、例えば宿題に関しては『量』ではなく質を高めるために役割のちがう3種類の課題①習熟用②応用用③自ら選ぶ発展問題を意識的に出すことで、主体性や達成感が得られるのではないかと考える。スクールダッシュボードやドリルパークの結果から「個人別・単元別の弱点」を洗い出し、個別の課題として設定するなど、個に応じた内容を検討していく。
思考・判断・表現	昨年度からの反省より、自分の考えを書くことや表現することの良さ、友達に認めてもらうことの喜びを改めて実感できるような指導に努めてきた。学校という集団の中で学習する利点を生かし、友達との対話や考えの比較によって思考力を高めるべく、例えばペアでの「説明し合いタイム」や小集団での「作戦会議」などの活動を積極的に取り入れていく。形式的な振り返りではなく、協働的な学びの強化、振り返りの高度化を目指していく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 算数科では各領域で課題があり、各学年で課題となる領域は異なっている。</p> <p><指導上の課題>課題のある領域では、重点的に対応問題に取り組み時間を設けているが、知識の定着に結びついていない。</p>	⇒ 各学年で課題のある領域を確認し、児童の実態に応じた指導を行う。「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、反復練習に力を入れる。【週に1度】 児童主体の授業を展開し、スクールダッシュボードのデータを活用して、成果と課題を共有する。【1か月に1度】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 算数科での課題が見えている。自身の考えに自信をもてず、他者に伝えることができていない。</p> <p><指導上の課題> 児童一人ひとりの考えを共有したり、伝えたりする機会が多く確保できていないことが課題である。</p>	⇒ 既習を生かしながら、自身で解決方法を決め、思考し問題を解く学習をこれまで通り行っていく【単元に応じて毎時間】 ICTを活用した協働的な学びを積極的に取り入れ、他者と対話しながら答えを導き出す活動を取り入れる【単元に応じて毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	学力向上カウンセリング訪問研修を通して、各学年で課題が見えている領域を確認した。教職員において児童の課題となる分野や領域を共通認識し、実態に応じた指導を行ってきた。さらに、校内研修では教科別の研修を行い、職員の技能の向上に努めた。ICTの活用においては、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、反復練習を行うとともに「スクールダッシュボード」の活用についても検討を進めている。
思考・判断・表現	B	本校は、資料を読み取って根拠をもとに自分の考えを説明する問題で、市よりも5ptほどの差がある。これは「考え方の進め方」が十分に身につけていないことが主な原因と考えられる。資料や文章を前に「どのように考え始めれば良いか」が曖昧なまま答えを書こうとして手が止まってしまう。そのため、考え方の手順をはっきりさせ、どの教科でも共通して使える「思考の型」の定着を目指し、繰り返し練習することが重要であり、児童の実態に合った指導方法を検討していく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数において多くの課題が見られ、特に「図形」と「数と計算」の領域に課題が集中している。図形では、台形を正しく選べない児童が多く、図形の構成要素の理解が不十分であると考えられる。数と計算では、分数を数直線に表すことや計算処理が十分にできていない様子が見られる。また、解答類型に当てはまらない解答が多く、問題の意図を正確に捉えて処理できていない児童が多いことが分かる。児童質問「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に対しては、肯定的な回答の割合が非常に高かった。今後も児童主体の個別最適な学びを進めるために、教職員の研修を継続していく。	
思考・判断・表現	算数では、伴って変化する2つの数量の関係から必要な数量を見出す問題に大きな課題が見られた。児童には、問題解決に必要な数量を考え、そこから立式、説明する力を育てていく必要がある。児童質問「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」に対しては、肯定的な回答が多く得られている。今後も児童が根拠をもって立式や説明ができるよう、授業展開を工夫していく。 また、国語では、目的に応じて文章と図表を結びつけ、必要な情報を見つける問題に課題が見られた。この力は国語に限らず他教科でも求められるため、教科横断的に育成できるよう意識して取り組んでいく。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	本校は全体的に、上の学年に進むほど市平均との開きが大きくなる傾向が見られる。特に、算数・理科・社会といった知識内容が積み上がる教科で差が拡大しており、基礎事項(用語・概念・計算技能・重要語句)の定着が十分でない可能性がある。高学年では、国語・算数・社会・理科すべてで市よりも6pt程度差が見られることから、学習の振り返りや算数ドリルや計算ドリル、ドリルパーク等で反復練習に力を入れ、基礎学力の定着を目指したい。この部分を強化していけば、脱「基礎の弱さ→活用問題で更に苦戦」の構造となり本校の学力は確実に向上していくのではないだろうか。	
思考・判断・表現	思考力・判断力・表現力が問われる問題では、本校が市よりも一貫して低い傾向が見られる。特に高学年では、4教科すべてで差が5~7pt前後となり、資料を読み取る力や根拠を基に説明する力に課題があるのではないだろうか。教科別でいくと、国語は文章を読んで根拠をもとに考えをまとめること、算数は条件の整理や図・表への変換、理科は観察→気づき→理由→結論という一連の流れを文章でまとめること、社会では資料(地図・統計・年表等)を基に理由を説明する問題で差が約・6ptと資料読み取りの型が整っていない可能性があると考えられる。知識・技能の基礎が苦手意識があるために、思考力を要する問題でさらに差が開くという構造になっているのではないかと。基礎学力の充実化を、それによって思考・判断・表現の力を育てていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	基礎的な学習内容の定着を図るため、反復練習を継続している。現在はドリルパークやスタディサプリを活用しているが、日々の宿題などの取組についてもさらなる工夫を検討していく。また、授業の振り返りにおいては、スクールダッシュボードのデータ活用について検討を進めている。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が「なぜそう考えたのか」という根拠を明確にする指導を継続している。また、ICTを活用し、児童同士が考えを共有・伝え合う場を積極的に設定している。今後は、各教科で育んだ思考・判断・表現したことを横断的に活用し、実生活と結びつけて考える力を育むことを意識していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)